

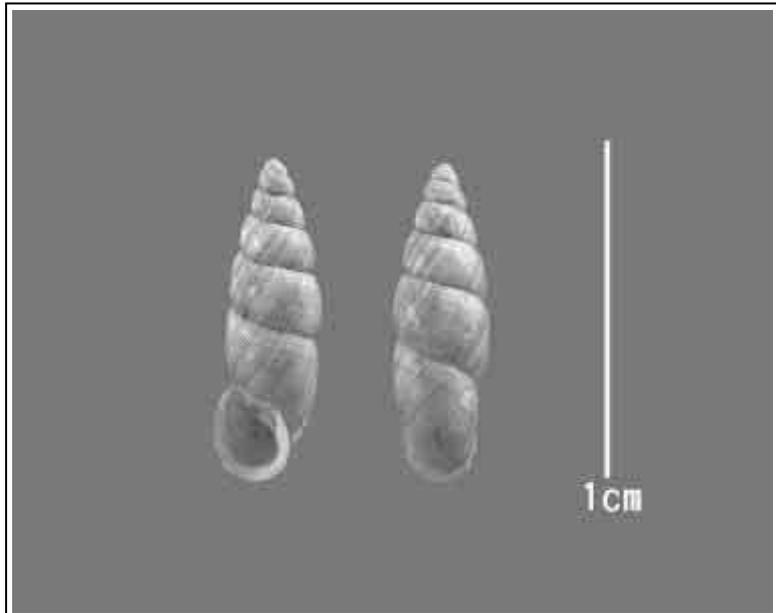
トカラコギセル *Proreinia eastlakeana vaga* (Pilsbry)

【選定理由】

本種は南方に主分布域を持つ樹上性の小型のキセルガイで、県内では三河湾の沖ノ島（幡豆郡）と竹島（蒲郡市）に分布する。両島産の個体群は分布が離れていることからシバタヒロクチコギセルという亜種として和名だけが提唱されたが、正式記載されていない。沖ノ島では絶滅し、竹島では現在も生息が確認されているが、生息範囲は狭く、生息個体数も少ない。

【形態】

殻高 10.5mm、殻径 3.5mm、螺層数 6。殻表に火焰彩がある。ヒロクチコギセルに酷似するが、本種には明瞭な主襞と腔襞がある点で区別できる。



蒲郡市竹島, 1988年4月30日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

沖縄、奄美大島、屋久島、四国、九州から愛知県に分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

海岸のヤブツバキやイヌマキの樹幹の疵痕に生息する樹上性のキセルガイである。

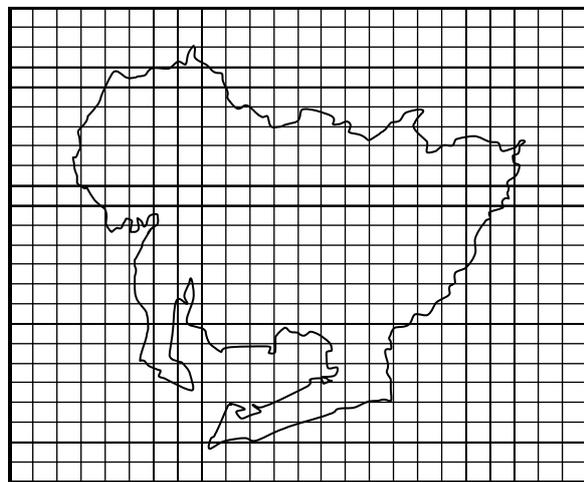
【現在の生息状況 / 減少の要因】

沖ノ島ではニホンザルを放牧し、そのため現在では絶滅したと考えられる。竹島では、毛虫の大発生による折消毒のために激減し、現在では極稀産である。卵胎生である。

【保全上の留意点】

むやみに消毒をしないことが必要である。

県内分布図



【関連文献】

- 柴田吉夫, 1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類, p.82. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山岳県立公園地区協議会.  
北王英一, 1968. 天然記念物(動物)緊急調査報告, p.31. 天然記念物(動物)緊急調査委員会.  
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.30. 愛知県郷土資料刊行会.  
湊 宏, 1985. イーストレーキコギセル属とヒロクチコギセル属, VENUS 43 (2): 173-174. 日本貝類学会.  
湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, pp.187-188. 日本貝類学会.  
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, pp.89-90. 保育社.

## ヒロクチコギセル *Reinia variegata* (A. Adams)

### 【選定理由】

海岸部のヤブツバキやタブ等の樹冠や樹幹に生息しているが、1976年以降急速に減少し、絶滅が心配される。

### 【形態】

トカラコギセルに酷似するが、閉弁並びに腔襞を有しない。上板下板が矮小なため殻口が広く見える。殻口 10mm、殻径 3mm、螺層は 6 層を数える。



八丈島, 1993年5月3日, 大平仁夫 採集

### 【分布の概要】

本州、四国、九州、種子島、伊豆諸島に分布し、近くでは三重県志摩地方、静岡県西伊豆町田子 (模式産地)、愛知県田原市 (旧渥美町) 伊良湖古山・宮山、豊橋市東細谷に生息する。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

海岸の崖地の雑木林中のヤブツバキの樹幹の疵痕やタブの樹冠や幹に着生する。樹上性である。卵胎生。

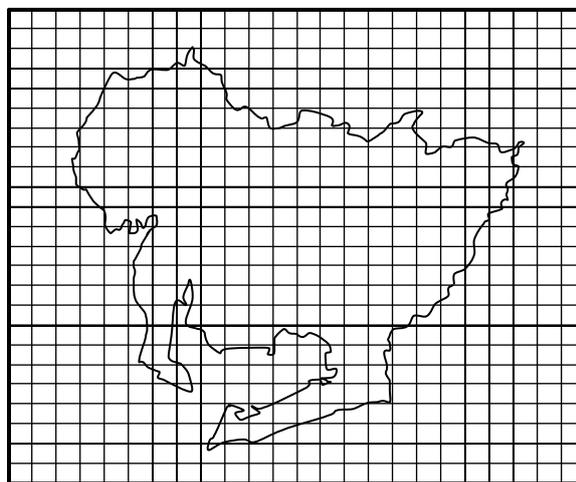
### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

豊橋市東細谷や伊良湖古山では既に絶滅した可能性が高く、僅かに宮山のヤブツバキに極稀産ではあるが生息している。

### 【保全上の留意点】

ツバキにはドクガが発生し易く、観光地では消毒することがあるのかもしれない。むやみに消毒をしないことが必要である。

県内分布図



### 【特記事項】

環境省では絶滅危惧 I 類にランクされている。

### 【関連文献】

- 野々部良一他, 1976. 伊良湖の貝類分布調査. かきつばた, 2: 7. 名古屋貝類談話会.
- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.30. 愛知県郷土資料刊行会.
- 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, p.191. 日本貝類学会.
- 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, pp.86-87. 保育社.

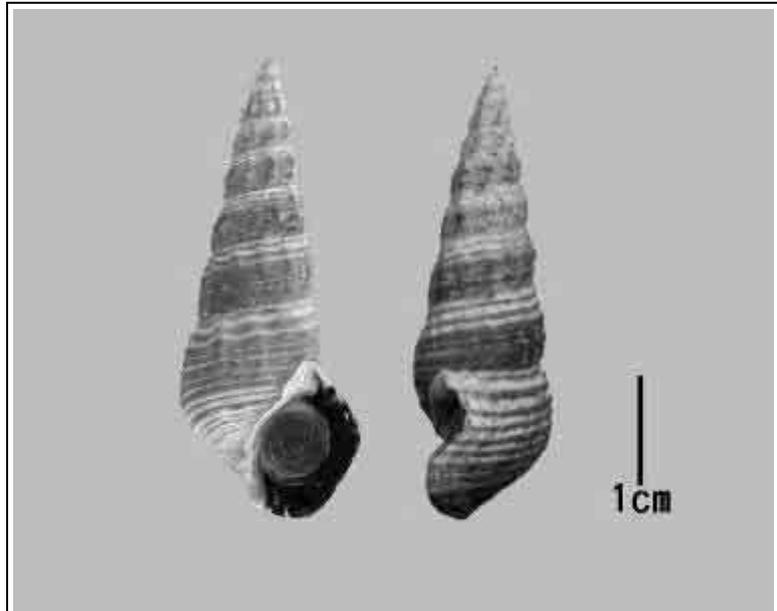
## イボウミナ *Batillaria zonalis* (Bruguiere)

### 【選定理由】

本種の属するウミナ科貝類は本県にホソウミナ、ウミナ、イボウミナの3種があり、ともに内湾の泥干潟の表面に生息している。東京湾や三浦半島ではホソウミナ以外の2種に著しい減少傾向が認められる(千葉県,2000:葉山しおさい博物館,2001)。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。また本種はウミナと比べても著しく生息地が少なく、近年生息数が減少している。和田ほか(1996)では、絶滅寸前(日本本土)とランクされている。

### 【形態】

殻高約4cm 殻径約1cmの高い塔型で殻は厚く、螺層にやや強い肋を持つ。殻口外唇が湾入する点で他の2種と区別できる。



汐川干潟, 2001年8月5日, 木村妙子 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述のように県内の生息場所は著しく減少したと考えられ、現在生息が確認されるのは汐川干潟(藤岡・木村,2000)の1カ所にすぎない。汐川干潟ではまだ健全な個体群が存在する。比較的新しい死殻は多くの干潟で確認されるので、近年減少した可能性が高い。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、インド、西太平洋。国内では北海道南部から琉球列島まで分布する。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

上述したように泥干潟の表面に生息するが、ウミナ科3種の中では最も干潟の先端部(沖合の部分)に分布し、アシ原湿地周辺の様に干潟の陸地に近い部分には生息しない(木村・木村,1999)。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。また生息場所が直接破壊されない場合でも生貝が見られなくなってしまった場所も多い。

### 【保全上の留意点】

上述したような泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

### 【特記事項】

千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

### 【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.  
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

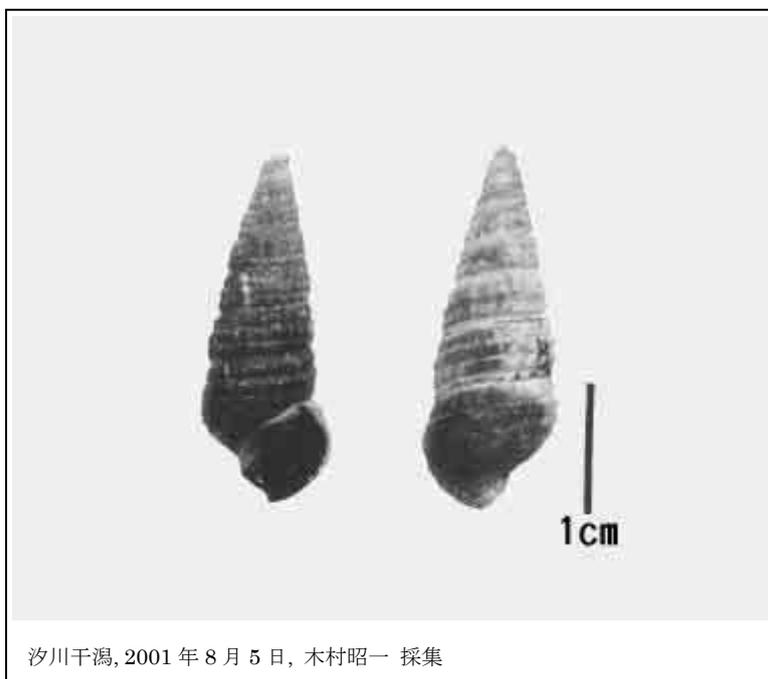
カワアイ *Cerithidea (Cerithideopsilla) djadjariensis* (K.Martin)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。本県ではアシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。県内で最も干潟環境が保全されている汐川干潟でも著しい個体数の減少が示唆されている(藤岡・木村,2000)。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 3cm の塔型で、よく成長した個体の殻口は肥厚し、ヘナタリと近似しているが、外唇の下部は水管部へ延びることはない。



【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内の生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では7カ所生息地があった。2000年からの調査では更に減少し、そのうちの1カ所でしか生息が確認されず、ウミナガ類やヘナタリが群生する汐川干潟でも2001年8月の調査では3個体しか生息を確認できなかった。

【世界及び国内の分布】

インド太平洋に広く分布する。国内では東京湾以南琉球列島まで分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

県内では上述したようなアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。ヘナタリと同所的に分布しているが、本種は著しく個体数が減少している。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。生息場所が新たに改変されていない場所でも近年個体数が著しく減少しているが、原因は不明。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地や泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県(2000)では最重要保護生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

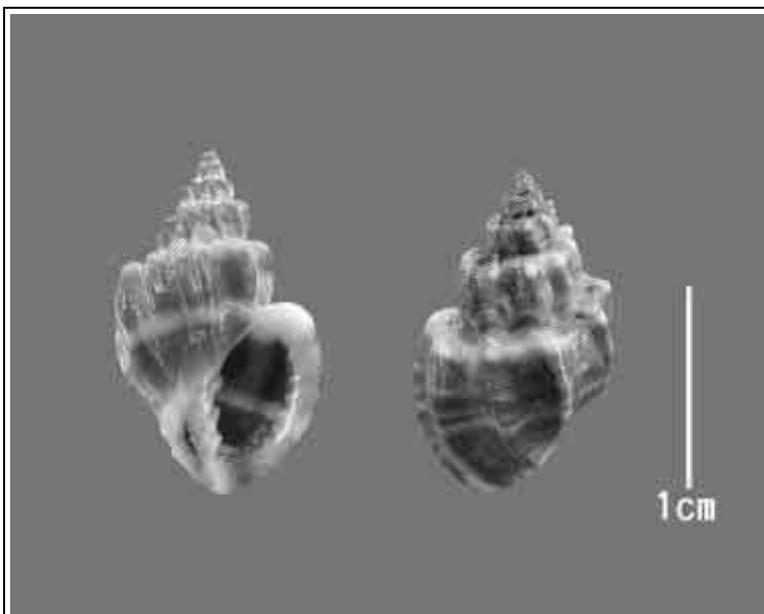
【引用文献】

- 藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の1998年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.
- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ペントス学会誌 54:44-56.
- 千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

オリレボラ *Trigonostoma scalariformis* (Lamarck)

## 【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では生貝が採集されていなかった(中山,1980:木村,1996:木村,2000)。2006,2007年に知多半島先端部の数地点でドレッジ調査の結果、少数の生貝と比較的多くの新鮮な死殻が採集できたので、今回ランクを下げた。しかし、生息範囲は狭く、個体数は少ないので予断を許さない。和田ほか(1996)では、現状不明(絶滅寸前?)とランクされている。



知多半島内海沖水深 8-10m(ドレッジ), 2007年 8月 8日, 木村昭一 採集

## 【形態】

殻高約 2.5cm の紡錘型の貝で、殻は厚く平滑。殻表には強い縦肋がある。蓋はない。

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

上述したように県内の潮下帯では、近年生貝は少数しか採集されない。

## 【世界及び国内の分布】

日本、インド、西太平洋。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

## 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

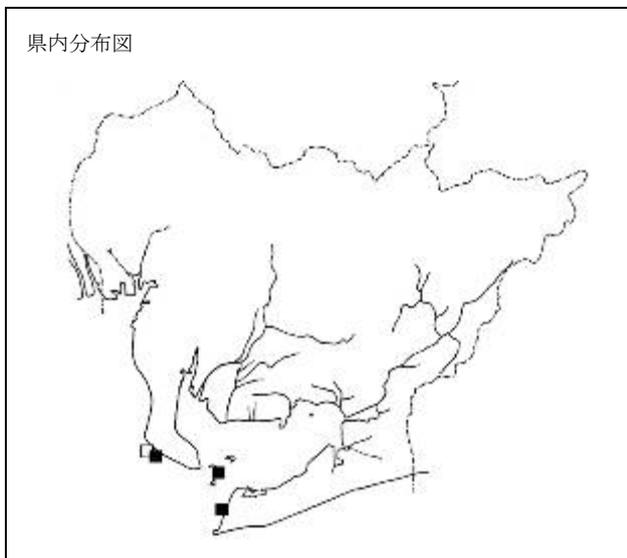
## 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような生息環境悪化のため、本種の生息場所、生息数ともに減少し、ほとんど生貝が採集されない。

## 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

県内分布図



## 【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, 6: 10-12. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

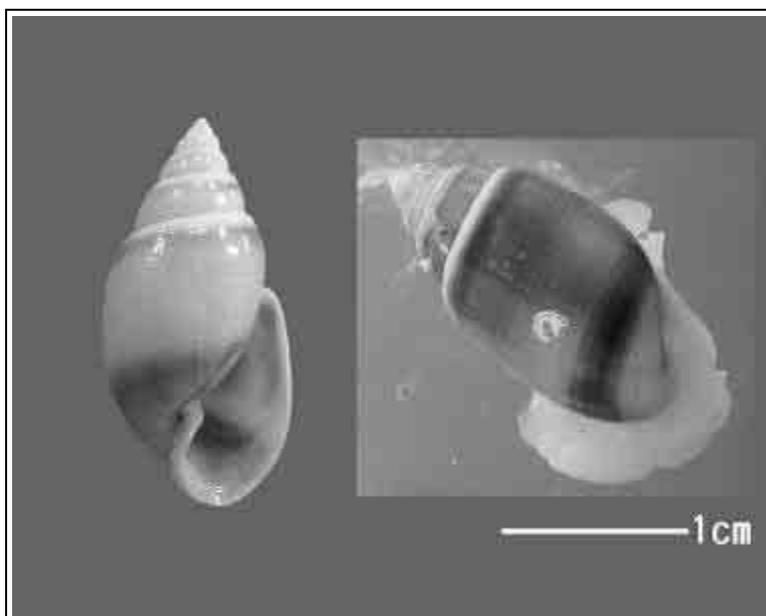
## オオシイノミガイ *Acteon sieboldi* (Reeve)

### 【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。近年3年間のドレッジ調査で、知多半島伊勢湾側より少数の生貝が採集されたが、その生息範囲は狭く、その他の海域では死殻すら採集されなかった(木村,2000)。

### 【形態】

殻長約 2cm で、殻は長卵形、薄質で光沢がある。境界の不明瞭な褐色の色帯が2本あり、殻表全面に細い螺溝をめぐらす。



南知多町内海沖水深 7m(ドレッジ), 2000年7月27日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

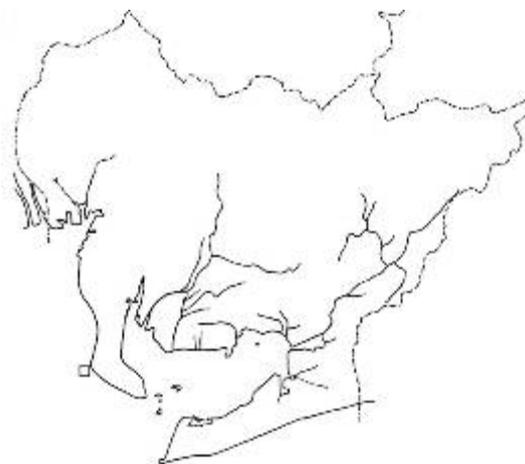
#### 【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、生貝は個体数が著しく少なく、生息する範囲も狭い。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、南シナ海。国内では三陸海岸以南に分布する。

県内分布図



### 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。生貝は透水性の高い潮下帯(水深約 10m まで)の砂底に限定され、生息範囲が著しく狭い。

### 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

### 【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

### 【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

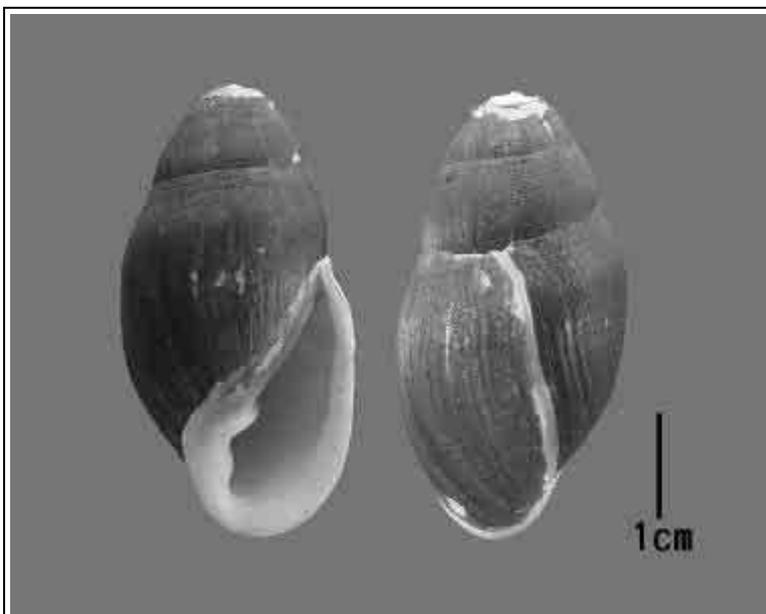
## オカミミガイ *Ellobium chinense* (Pfeiffer)

### 【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地内に分布する。本県ではアシ原湿地が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。健全な個体群は汐川干潟でのみ保存されている。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

### 【形態】

殻高約 3.5cm、殻径約 1.5cm で日本産オカミミガイ科としては最大種。殻は卵形で殻表は褐色の殻皮で覆われる。



汐川干潟, 2001年6月24日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では3カ所で生息を確認し、その後新たに2カ所で生息を確認した(木村,1999)。しかし、汐川干潟以外では生息確認個体数がそれぞれ5個体以下で絶滅が危惧される。2002年に渥美半島三河湾流入河川河口部で新たに生息地を確認したが、生息数は非常に少なかった(木村・木村,2002)。

#### 【世界及び国内の分布】

日本と中国南部。国内では東京湾(絶滅)以南、三浦半島(絶滅)、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海に分布する。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

上述したようなアシ原湿地内の朽ち木や落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

### 【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と連続する上部の陸上植生を保全する。

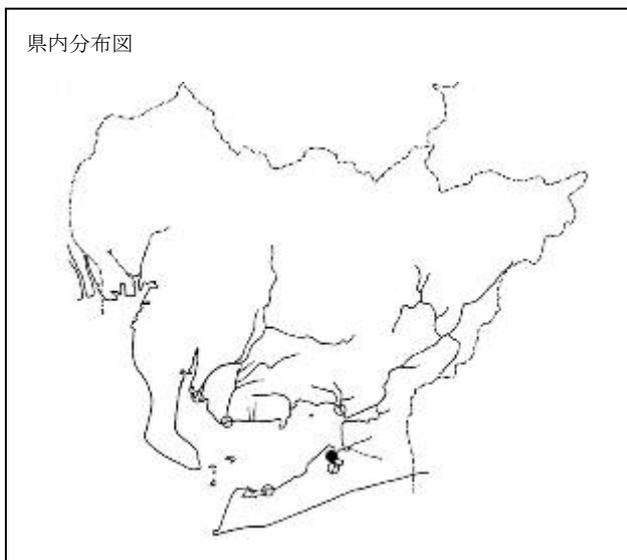
### 【特記事項】

本県は分布の東限である。水産資源保護協会(1997)では危急にランクされている。千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。

### 【引用文献】

- 木村昭一, 1999. 佐奈川河口域観察会報告. かきつばた, 25: 14-17. 名古屋貝類談話会.  
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
木村昭一・木村妙子, 2002. 新堀川河口塩性湿地の貝類相. かきつばた, 28: 13-14. 名古屋貝類談話会.  
水産資源保護協会, 1997. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(IV), 126pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図



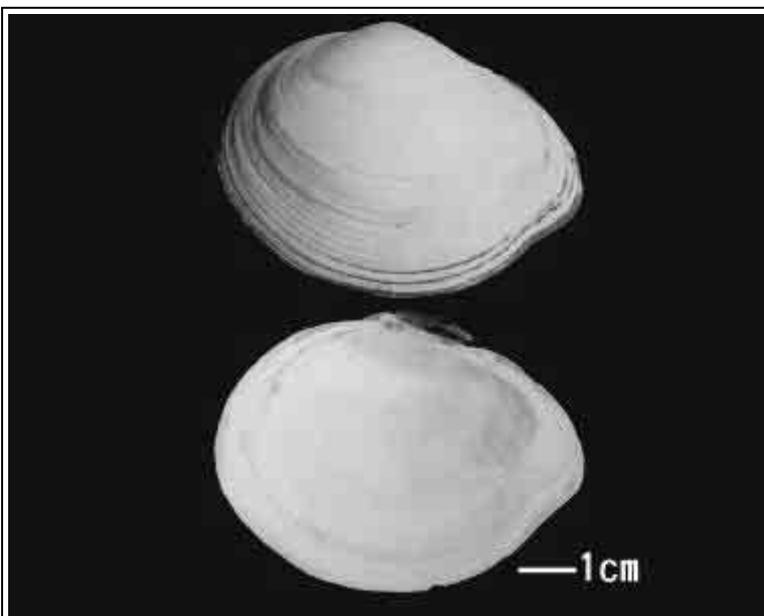
サビシラトリ *Macoma contabulata* (Deshayes)

【選定理由】

本種は内湾の奥部や河口部の砂泥干潟に生息する。本県では干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は1995年に矢作川河口域で比較的多くの個体の生息が確認されたが、2001年の調査では死殻も稀であった。もともと伊勢湾の愛知県側、三河湾での記録は多くないが、近年明らかに本種の個体数が減少している。

【形態】

殻長約7cmで殻は卵形で、ニッコウガイ科としては膨らみが強い。殻はやや薄く、白色、生きている時には薄い殻皮を縁辺部に被る。



矢作川河口, 1995年8月28日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

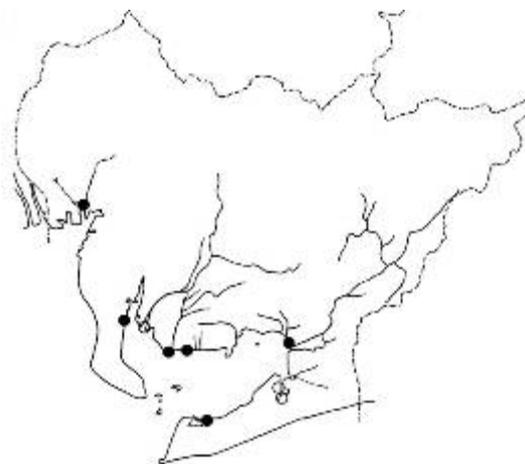
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少している。

【世界及び国内の分布】

日本、中国。国内では北海道南西部から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。近年死殻さえ少なくなった。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

千葉県(2000)では重要保護生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

ベニゴマオカタニシ *Georissa shikokuensis* Amano

【選定理由】

東海地方以南、四国、九州の石灰岩地に分布する。県内では豊橋市石巻山でのみ生息が確認されている。石巻山では湿度の保たれた自然林内の石灰岩の露出した部分にのみ生息し、生息範囲は非常に狭い。現在も石巻山の個体群は健全であるが、生息範囲があまりにも狭いので、絶滅が危惧される。

【形態】

殻高 2-3mm で微小。殻は鮮やかな赤色で、薄質、卵円形で各層はよくふくらむ。臍孔は滑層によって被われる。殻表には螺肋があるが弱く、滑らか。蓋は半円形で厚く石灰質。



豊橋市石巻山, 2008年7月9日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

日本固有種。東海地方以南、四国、九州の石灰岩地にのみ分布する。県内では豊橋市石巻山でのみ生息が確認されている。

【生息地の環境 / 生態的特性】

湿度の保たれた自然林内の石灰岩の表面に付着する。冬季は落葉下で休眠する。

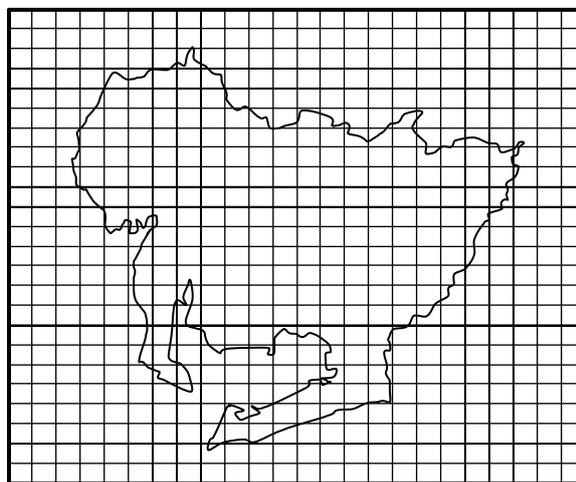
【現在の生息状況 / 減少の要因】

幸い石巻山では健全な個体群が確認されているが、生息地の乾燥化が進行している場所では個体数が著しく減少する。

【保全上の留意点】

石巻山という陸産貝類にとって非常に貴重な生息地の植生、地形を含めた包括的な保全が求められる。また希少種の継続的なモニタリングも必要である。

県内分布図



【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.25. 愛知県郷土資料刊行会.  
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.32. 日本陸産貝類総目録刊行会.  
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.23. 保育社.

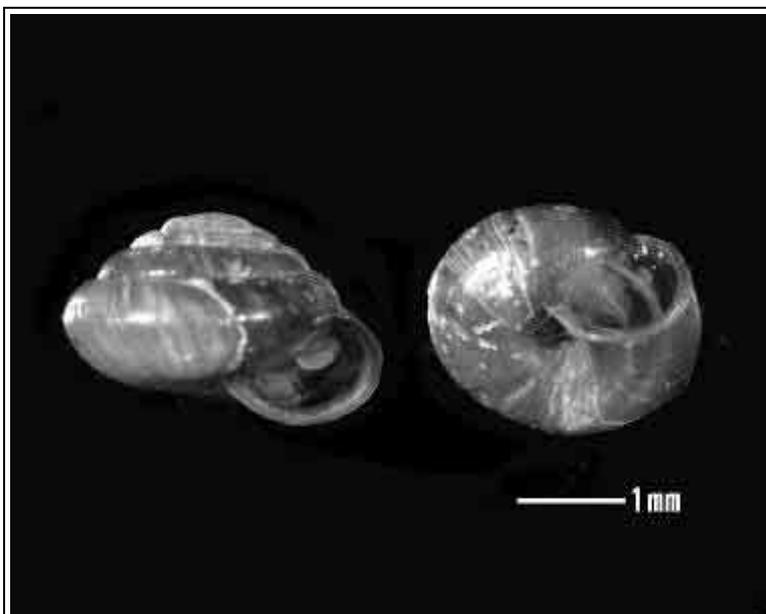
ナニワクチミゾガイ *Eostrobilops nipponica reikoeae* Matsumura et Minato

【選定理由】

1997年の大阪府陸産貝類調査で発見された小型の陸産貝類である。栗飯原氏が1993年に大府市森岡町愛知健康の森で採集していたが、その後の大規模開発で正確な位置が特定できないでいたが、河辺氏が1999年4月に、早瀬氏が1999年10月に大府市森岡町愛知健康の森付近でやや離れた地点で多産地点を確認した。クチミゾガイ科の貝は比較的珍奇で稀産である。

【形態】

貝殻は小型(殻高1.5~1.8mm、殻径2.5~2.8mm)で堅固、低いドーム形状の螺塔で底面は膨れる。螺層は約5層で緻密に巻き、縫合は深い。臍孔は狭く開き殻径の1/5に相当する。殻色は暗赤褐色で鈍い光沢がある。殻口は半月形で、内唇滑層は厚く、和名の元となった2本の体壁板が内部へ走る。



大府市森岡町 愛知健康の森, 2007年2月16日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

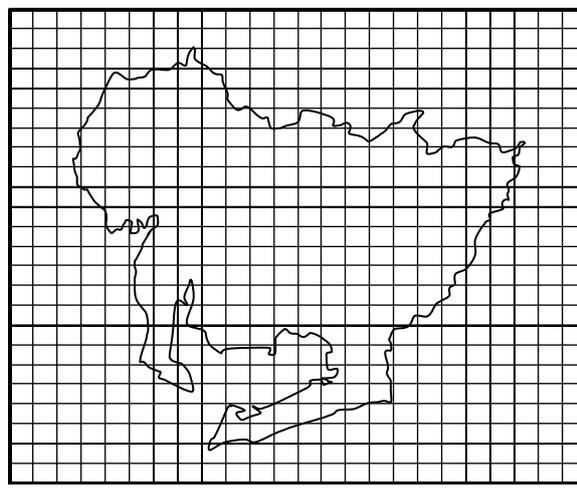
大阪府の淀川以北の高槻市、茨木市、箕面市等に分布し、淀川以南からは確認されていない。愛知県大府市森岡町愛知健康の森でも生息することが確認されたが、模式産地一帯に比べて生息密度が高い点でも貴重である。

【生息地の環境 / 生態的特性】

マツシマクチミゾガイの生息環境が淡水貝と間違えるほど水の滴る倒木下などであることに比べると、本種は陸貝の中でははるかに標準的である。

本種は標高20~80mの丘陵地とその周辺のコナラ・クヌギ等の二次林の比較的乾燥した落葉下にみられる。しかし落葉下部は適度な湿り気を帯びているところが多く、そこに本種が群棲している。従来のクチミゾガイ科の貝とは分布地がはるかに離れた西方地域で、しかも標高が低い丘陵地の二次林であること等、特異な種類である。

県内分布図



【現在の生息状況 / 減少の要因】

大阪府北部及び愛知県大府市森岡町に分布が限定されている。今のところ減少はしていない様であるが、場所的に開発の波に襲われやすい地域なので、それが心配である。

【保全上の留意点】

現在の生息確認地一帯のコナラ・クヌギの二次林を保護するように留意する。

【特記事項】

大阪府では絶滅危惧Ⅰ類に指定している。

【関連文献】

松村 勲・湊 宏, 1998. 大阪府北部で採集されたナニワクチミゾガイ(新亜種), VENUS 57 (1): 39-47. 日本貝類学会.  
河辺訓受・大原健司・栗飯原一郎, 2000. ナニワクチミゾガイの新産地. ちりぼたん, 30 (4): 87. 日本貝類学会.  
湊 宏・松村 勲, 2000. 陸産貝類. 大阪府における保護上重要な野生動物—大阪府レッドデータブック, p.254. 大阪府.

## クビナガギセル *Pinguiphaedusa kubinaga* (Kuroda)

### 【選定理由】

本種の模式産地は石巻山で、中腹以上の石灰岩の岩礫地の落葉下に生息している。模式産地以外に生息地は発見されておらず、本種は石巻山特産種といえる。現在はマツクイムシの薬剤空中散布で絶滅に瀕した過去から回復し、一時と比べ多産する様になったが、生息範囲は非常に狭く、手厚い保全が望まれる。

### 【形態】

殻はやや小形で殻高 18mm、殻径 3.8mm、12 1/3 層、殻口は小さく著しく突き出て頸部は細くて長い。主襞は長く、月状襞は顕著である。発生は卵生。



豊橋市石巻山山頂付近, 1989年5月28日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

愛知県豊橋市石巻山の特産種である。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

石灰岩の岩礫地の間の落葉下に群れて生息する。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

現在はマツクイムシの薬剤空中散布で絶滅に瀕した過去から回復し、多産する様になったが、生息数は年による変動が認められる。

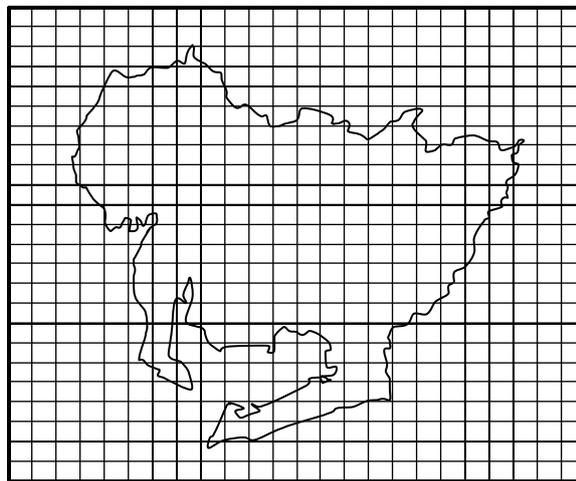
### 【保全上の留意点】

生息確認地 (石巻山) を中心とした岩礫地の保全に留意する。

### 【特記事項】

石巻山の特産種で模式産地である。

県内分布図



### 【関連文献】

吉田博士祝賀記念誌論文篇, 1939. 三河石巻山嵩山(スセ)の陸貝相, p.676.

天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4:13.

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物, p.151.

野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.28. 愛知県郷土資料刊行会.

柴田吉夫, 1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類, p.81. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会.

東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.54. 保育社.

**ホソヒメギセル** *Tryannophaedusa gracilispira* (Moellendorff)

**【選定理由】**

近畿以西、中国、四国、九州に分布する小形のキセルガイで、豊田市足助町はその分布の太平洋側の東限である。

**【形態】**

殻高 9mm、殻径 2mm、9 層。円筒状の紡錘形で淡褐～黄白色。彫刻は強く密に現れる。殻口はやや傾斜し洋梨形。唇縁は広く反転し、微かに螺層から突き出る。主襞の殻外面上に溝がある。上・下腔襞の間に小さな腔襞が 2 個見られる。



豊田市猿投山, 1998 年 10 月 4 日, 河辺訓受 採集

**【分布の概要】**

近畿、中国、四国、九州（北部）に分布する。和歌山県那智山、護摩壇山、奈良県十津川玉置山、徳島県桃源洞、香川県小豆島、福岡県豊前市犬ヶ岳等はその知られた産地である。

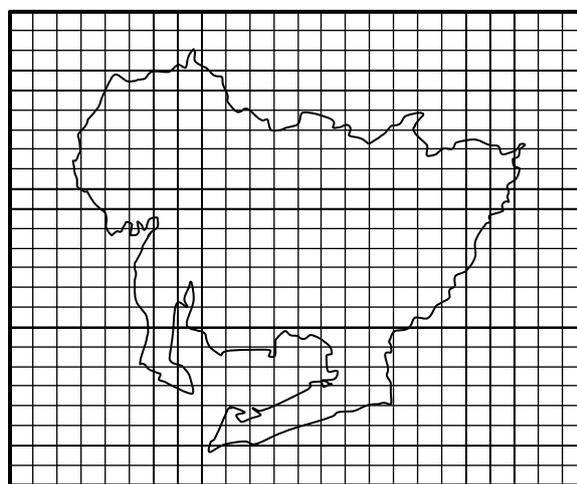
**【生息地の環境 / 生態的特性】**

大木の根元などの落ち葉の中、樹洞、朽ちた木や腐った木の屑の中から見つかることが多い。卵生である。

**【現在の生息状況 / 減少の要因】**

愛知県では豊田市猿投山山頂と豊田市足助町 2ヶ所の合計 3ヶ所からしか見つかっていない。限られた環境にしか生息しないので、大木の根元などの落ち葉の中、樹洞、朽ちた木や腐った木の屑の中などの壊れやすい環境が整理されると絶滅する。

県内分布図



**【保全上の留意点】**

猿投山の山頂部等に神社周辺の枯れた木、倒木、朽ちた木等の整理を避け、そのまま保全するように留意すべきである。

**【特記事項】**

本県の生息地は本種の太平洋側の分布東限である。

**【関連文献】**

- 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, pp.100-101. 日本貝類学会.
- 湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.72. 日本陸産貝類総目録刊行会.
- 守谷茂樹, 2004. 足助町でホソヒメギセルを確認. かきつばた, 29: 42-43.
- 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.73. 保育社.
- 奥谷喬志, 1986. 貝類. 決定版生物大図鑑, p.251. 世界文化社.

## ミヤマヒダリマキマイマイ（ヒラヒダリマキマイマイ） *Euhadra scaevola scaevola* (Martens) (*E. s. interioris* Pilsbry)

### 【選定理由】

山中の落葉下や沢筋等の雑草の根元等に生息し、少産種である。近年の乾燥化に伴い著しく減少してきた。ミヤマヒダリマキ型は鳳来町棚山に分布した。ヒラヒダリマキ型は定光寺から鳳来寺山、豊根村、旧富山村に分布するが、少産である。死殻は比較的良好に見つかるが、生貝は極めて珍しい。

### 【形態】

ミヤマヒダリマキマイマイは殻高 15mm、殻径 30mm 内外、5 3/4 層、周縁角は顕著。ヒラヒダリマキマイマイは著しく大形で、殻高 20mm、殻径 41mm、6 層前後。



ミヤマヒダリマキマイマイ，豊根村三沢，1989年5月5日，木村昭一 採集

### 【分布の概要】

ミヤマヒダリマキマイマイは関東西部、静岡県、山梨県、石川県に分布するが稀産。ヒラヒダリマキマイマイは長野県、福井県、岐阜県、滋賀県、三重県に分布する。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

山地の雑木林の落葉下や、沢筋の雑草特にイタドリの株の間に生息する。湿気を好み、石組みの隙間に潜むことも少なくない。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

ここ 10 年来の乾燥気候のため、生息地の環境が著しく乾燥し、生息個体数が急速に減少している。

### 【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした樹林や沢筋の保全に留意する。また、採取の防止に努める。

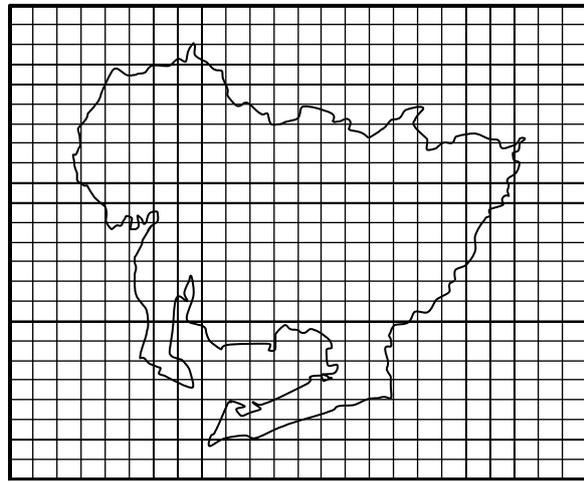
### 【特記事項】

県内では定光寺から鳳来寺山、豊根村、東栄町、新城市、豊橋市と略連続的に分布するが、ヒラヒダリマキマイマイ、ミヤマヒダリマキマイマイ、ミカワマイマイの 3 亜種の移行地域として重要である。

### 【関連文献】

- 愛知県科学教育センター，1967. 愛知の動物，p.151.  
鳳来寺山自然科学博物館，1973. 鳳来寺山・自然と文化・鳳来寺山の陸貝，p.85.  
吉田博士祝賀記念誌論文篇，1939. 三河石巻山嵩山(スセ)の陸貝相，pp.678-679.  
野々部良一・高桑 弘・原田一夫，1984. 陸産貝類. 愛知の動物，p.38. 愛知県郷土資料刊行会.  
天野景従，1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4:13.  
東 正雄，1982. 原色日本陸産貝類図鑑，p.180. 保育社.  
柴田吉夫，1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類，p.82. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会.

県内分布図



## ミズゴマツボ *Stenothyra japonica* Kuroda

### 【選定理由】

本種は原記載時 (Kuroda, 1962) に岩手、茨城、千葉、三重、大阪、島根、岡山、山口、高知、長崎、鹿児島県が分布域としてあげられているが、1990 年以降に生息が確認されているのは新潟県 (佐藤, 1992)、千葉県 (黒住・岡本, 1994)、山口県 (Hosaka & Fukuda, 1996)、兵庫県 (増田・内山, 2004)、熊本県 (不知火町; 木村未発表) と分布域は広いが現生息地は少なく、そのいずれの場所も局地的で生息面積は小さい。今まで愛知県からの正式な生息記録はなかったが、2006 年の調査で木曽川中流域に本種の健全な個体群を確認した (木村, 2006)。現在、愛知県からは上述の生息地のみ知られているにすぎない。和田ほか (1996) では、危険とランクされている。

### 【形態】

殻は殻長約 5-7mm と小型。貝殻の外形は卵形で、各層は良く膨れ、縫合部は強くくびれる。螺管の巻きに沿って点刻が連続する。殻口は体層から狭まり円形。臍孔はない。蓋は石灰化して厚い。



愛西市木曽川本流, 2006 年 10 月 31 日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように現在木曽川中流域の 1 地点でのみ生息が確認されている。生息場所では比較的個体数は多い。

#### 【世界及び国内の分布】

日本固有種。岩手県から熊本県まで広く分布するが、生息地は局地的で少ない。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

本流から直接流れの当たらない全く護岸工事の行われていないワンドのような砂泥底にのみ本種は生息していた。また生息地は淡水域ではあるが、潮汐の影響が微妙ではあるが認められ、感潮域であることは内湾近くの淡水域に生息する本種の生息限定要因と考えられる。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような生息環境は河川改修や護岸工事等でほとんど存在しない。

### 【保全上の留意点】

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で絶滅が危惧される。

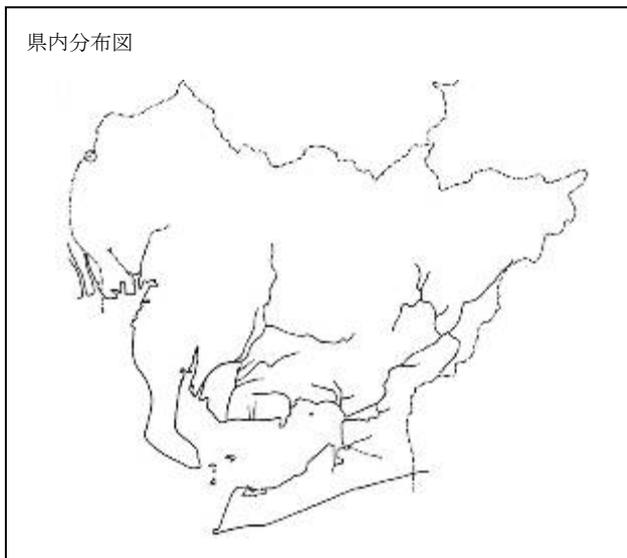
### 【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

### 【引用文献】

- Hosaka, K. & Fukuda, H., 1996. Discovery of a population of endangered brackish-water snail *Stenothyra japonica* (Gastropoda: Neotaenioglossa: Stenothyridae) and characteristics of the accompanied molluscan fauna in Onoda City, Yamaguchi Prefecture, western Japan, with a comment on the conservation value. *The Yuriyagai, Journal of the Malacozological Association of Yamaguchi*, 4(1/2): 65-96.
- Kuroda, T., 1962. Note on the Stenothyridae (aquatic Gastropoda) from Japan and adjacent region. *Venus*, 22(1): 59-69, pl. 4.
- 黒住耐二・岡本正豊, 1994. ミズゴマツボを千葉県の水田で確認. *ちりぼたん*, 24(3/4): 84.
- 増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水産貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. *ピーシーズ*, 240pp.
- 木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. *かきつばた*, 32: 22-27.
- 佐藤 修, 1992. 横越村とその付近の非海産貝類. *しぶきつば*, 13: 7-10.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. *WWF Japan Science Report 3*, 182 pp.

県内分布図



マシジミ *Corbicula leana* Prime

【選定理由】

マシジミは愛知県の平野部の河川、湖沼にごく普通に生息していた淡水二枚貝であった(愛知県科学教育センター,1967;木村,1994)。しかし、1990年代にカネツケシジミ(タイワンシジミ *Corbicula fluminea* (Muller, 1774) の黄色型)が愛知県にも移入、定着し、マシジミ分布域の多くで、移入したカネツケシジミと置き換わっていることが確認された(原田,2000;木村,2002)。2002年7月から8月にかけて5回に渡って豊田市内の河川の調査をしたところ、カネツケシジミが広域に定着し、その反面5年前の調査時と比較してマシジミの生息場所、生息数ともに著しく減少していることを確認した(木村 2002)。2006年からの調査では、河川下流域、大きな水系とつながった水路等には、カネツケシジミが定着し、マシジミはほとんど見られなくなった。また、貝殻の形態でマシジミと同定される個体でも、同所的にカネツケシジミが生息している場合には遺伝子がカネツケシジミに汚染されている可能性が高い。



豊田市御船川, 上: 2002年7月2日, 下: 1996年8月, 木村昭一 採集

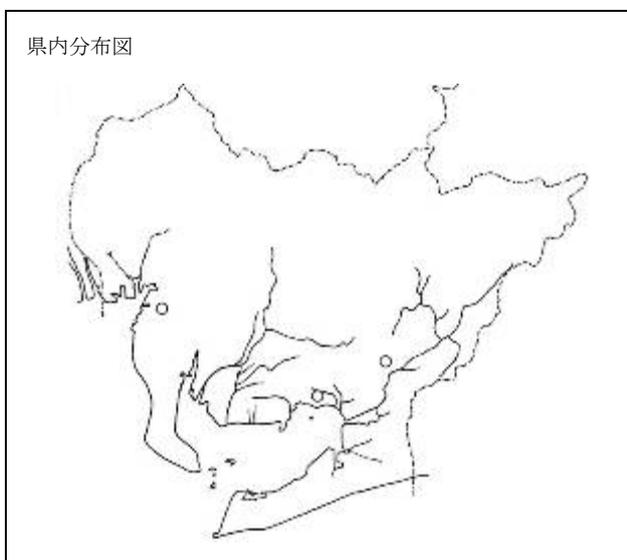
【形態】

殻長 30mm 程度の三角形に近い形をした二枚貝。殻表の成長脈はやや荒く、殻の色彩は黄褐色から黒色。カネツケシジミの典型的な個体は殻表の色彩が鮮やかな黄色で内面は白色になるので区別は明確であるが、マシジミかタイワンシジミ類か同定が困難な個体も多く出現する。

【分布の概要】

マシジミは日本固有種で、東北から九州に生息。カネツケシジミを含むタイワンシジミ類が日本に移入、定着した例は、1985年岡山県で最初に確認され、その後、兵庫県など西日本において本種の定着が報告されている(増田・内山, 2004)。また、愛知県でも 2000年に知立市での定着例が報告されている(原田, 2000)。マシジミの分布域のうち関東以西の各地では猛烈なスピードでタイワンシジミ類に置き換わっている(増田・内山, 2004)。愛知県(木村, 2002)、岐阜県、三重県でも同様の現象が確認されている。マシジミかタイワンシジミ類か区別できない個体の生息地も多い上に、猛烈なスピードでカネツケシジミが分布域を広げているので分布図に提示した産地は 2006年から2008年の調査で、マシジミと形態的に同定される個体のみが生息していた産地を示す。全て大きな水系とは隔離された小河川のみで、わずか3ヶ所にとどまった。山地から直接流れる小河川や湧水を水源とする水路などを詳しく調査すれば、生息地は増加すると思われる。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

カネツケシジミが移入した水域ではもうどうすることもできないが、せめて未だ移入していない生息地を早急に発見し、カネツケシジミが移入しないように措置を講ずる必要がある。

【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物, 151pp.  
原田一夫, 2000. タイワンシジミが愛知県に侵入. かきつばた, 26: 10. 名古屋貝類談話会.  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2002. 豊田市におけるカネツケシジミ(タイワンシジミ黄色型)の繁殖例. かきつばた, 28:18-19. 名古屋貝類談話会.  
増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水産貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ, 240pp

## ヒロクチカノコ *Neritina (Dostia) violacea* (Gmelin)

### 【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。和田ほか(1996)では、絶滅寸前(日本本土)とランクされている。

### 【形態】

殻径約 3.5cm の半球型平巻きで螺塔が現れない。名前の通り殻口は広がる。蓋は半円形で、石灰質。



矢作川河口, 1994年8月9日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述のように愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在7カ所である。庄内川、矢作川河口域では健全な個体群が残っているが、他の生息場所では個体数が非常に少ない。

#### 【世界及び国内の分布】

中国大陸南部から東南アジア、オーストラリア北部にかけて分布するが、日本本土産と同一種かどうかは注意を要する(水産資源保護協会,1996)。国内では東京湾(絶滅)、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海、琉球列島に分布する。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

上述のようにアシ原湿地周辺の塩沼やアシ原内の水たまりなど直接河川水の当たらない淀んだ泥干潟を好む。泥上にも生息するが、朽ち木や転石があればその下面に集まる。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

### 【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

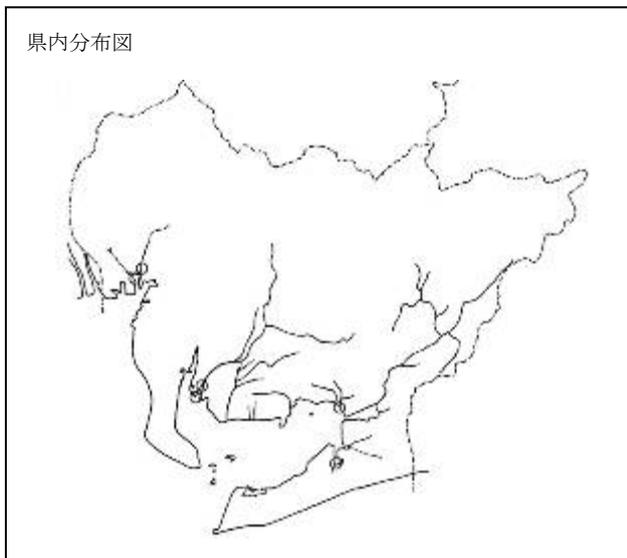
### 【特記事項】

本県は分布の東限になっている。千葉県(2000)では絶滅生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

### 【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
水産資源保護協会, 1996. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(Ⅲ), 90pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図



ヒナユキスズメ (未記載種) *Phenacolepas* sp.

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺の深く埋もれた転石下に生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。しかし、本種は小型種で、特殊な生息場所に生息し、近年発見され、和名のみがつけられた未記載種であるが本県における分布に関する情報がかなり蓄積したので、前回の情報不足からランク付けする。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。



汐川干潟, 1995年8月3日, 木村昭一 採集(生体)

【形態】

殻長(長い径)約5mmの小型で扁平な笠型。殻頂は左側に傾く。軟体は紅色で足の筋肉の中に微小な蓋が埋もれている。

【分布の概要】

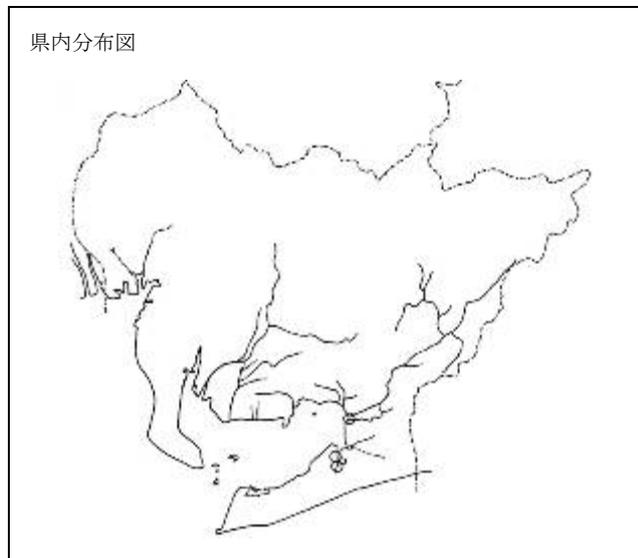
【県内の分布】

上述したように愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在3カ所である。生息場所でも個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

現在まで日本でのみ発見されている。国内では三河湾、伊勢湾、瀬戸内海に分布する。

県内分布図



【生息地の環境/生態的特性】

上述したようなアシ原湿地周辺の10cm以上深く埋もれた石の下面に付着している。生息部位は硫化水素が発生して黒色を呈する還元的环境である。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

本種の生きた個体は三河湾汐川干潟で初めて発見され、現在分布の東限になっている。

【引用文献】

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

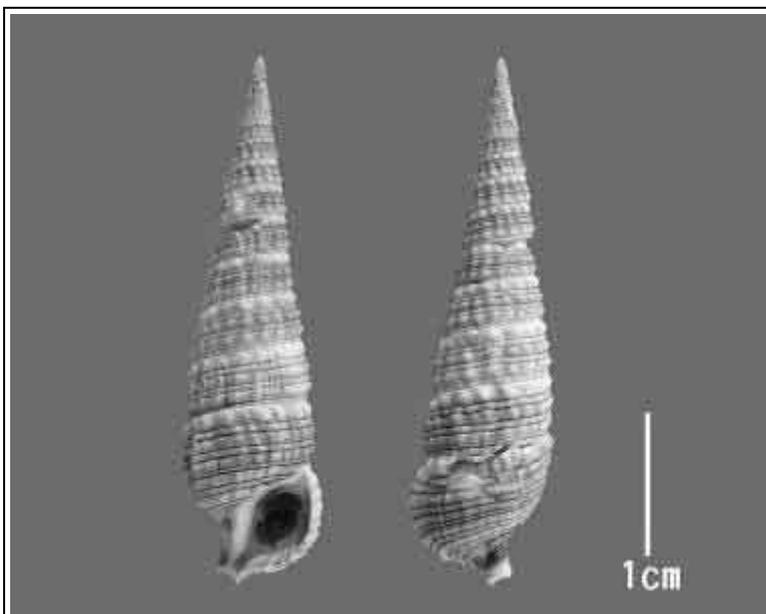
カニモリ *Rhinoclavis (Proclava) kochi* (Philippi)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種はかつては、多産する普通種であったが(愛知県科学教育センター, 1967)、最近 15 年間で著しく減少し、現在生貝は極めて稀である。和田ほか(1996)では、危険(絶滅寸前?)とランクされている。2006, 2007 年に知多半島先端部の数地点でドレッジ調査の結果、健全な個体群の生息を確認したので、今回ランクを下げた。しかし、生息範囲は狭く予断を許さない。

【形態】

殻高約 4cm の塔型の貝で、殻頂部は鋭くとがる。殻口は肥厚し、水管は背部へそる。



南知多町内海沖水深 15m(ドレッジ), 2001 年 7 月 31 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

三河湾湾口部では 1994 年頃には水深 1m ほどの砂底で非常に新鮮な死殻が多数見られたが、すでに生貝が採集できなかった(木村, 1995, 1996)。1998 年からの調査では新鮮な死殻もほとんど採集されず(木村, 2000)、2001 年のドレッジ調査で知多半島内海沖の水深 15m の砂泥底より生貝 3 個体を採集した。2006, 2007 年における同所のドレッジ調査の結果、健全な個体群の生息を確認した。

【世界及び国内の分布】

日本、インド、西太平洋。国内では房総半島から九州まで分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように県内では最近 15 年間で極めて稀な種となってしまった。急激に減少した要因は不明。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

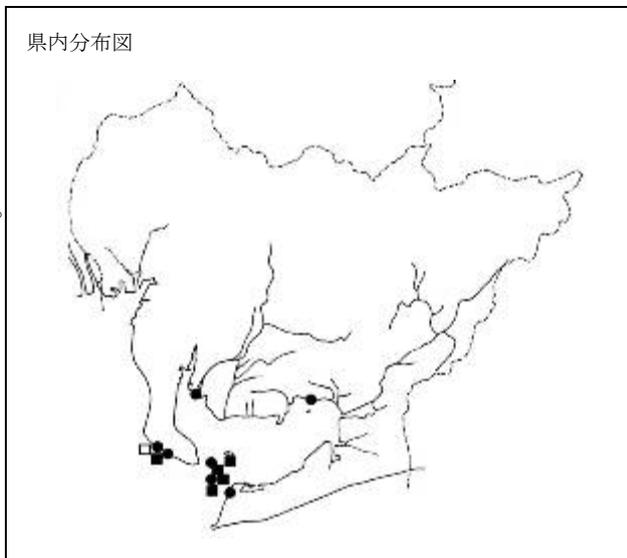
【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

県内分布図



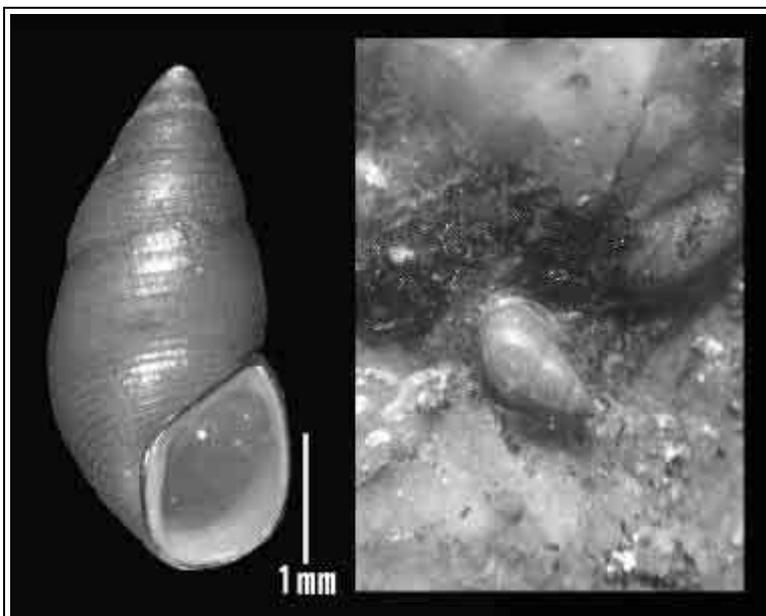
ワカウラツボ *Iravadia (Fairbankia) sakaguchii* (Kuroda et Habe)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺の転石や朽ち木の下に生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村,1989;木村・木村,1999)。和田ほか(1996)では、絶滅寸前とランクされている。

【形態】

殻は殻長約 5mm と小型で、長卵形。臍孔はなく、蓋は革質で薄い。近似種のカワグチツボとは臍孔がない点、殻が厚い点などで区別される。



藤前干潟, 2008年7月13日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在4カ所である。生息場所でも個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

現在まで日本でのみ発見されている。三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海に分布する。

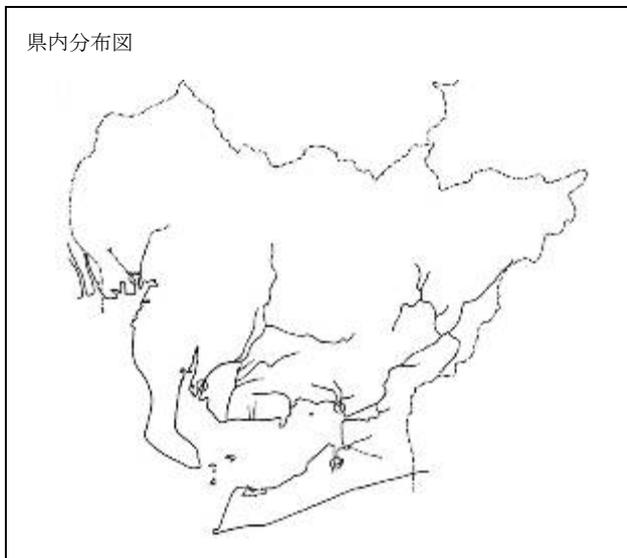
【生息地の環境 / 生態的特性】

県内では上述したようなアシ原湿地周辺の10cm以上深く埋もれた石や朽ち木の下面に付着している。稀にアシ原群落内の小さな水たまりにたまった朽ち木や落ち葉に付着している。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

本県の生息地は分布の東限になっている。模式産地の和歌山県和歌浦では環境破壊のため採集されず、有明海から再発見されるまで長らく幻の貝であった(木村, 1987)。

【引用文献】

- 木村昭一, 1987. ワカウラツボを有明海にて採集. 南紀生物, 29 (2): 95.  
木村昭一, 1989. ワカウラツボを汐川干潟(三河湾)にて採集. 南紀生物, 31 (2): 130-131.  
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ペントス学会誌, 54: 44-56.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

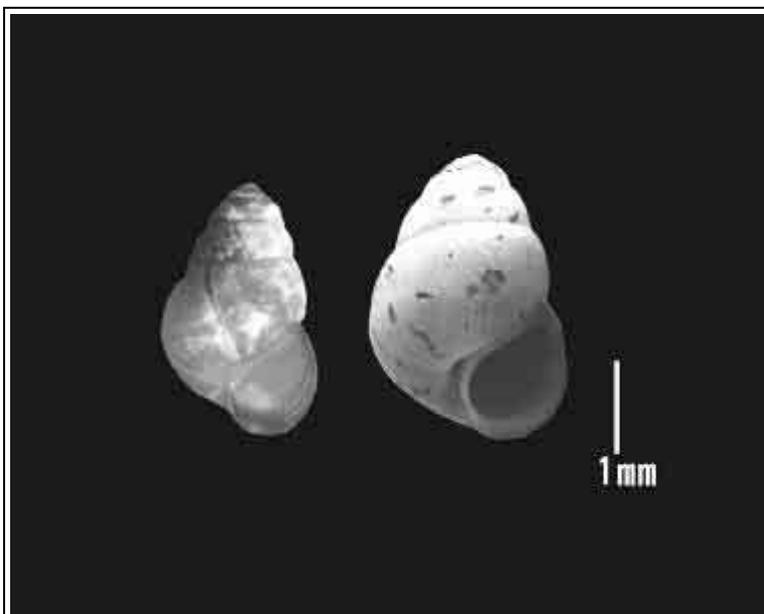
ヨシダカワザンショウ *Angustassiminea yoshidayukioi* (Kuroda)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地とそれより上部の陸上植生にかけて分布する。本県ではアシ原湿地やその上部へ連続する陸上植生は護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。特にアシ原湿地の陸上に近い部分は護岸工事などで破壊されやすく、生息場所の保全が心配される。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 3mm の微小種。カワザンショウガイ科は小型種が多く形態的にも近似して同定は難しい。本種は貝殻の光沢が強いこと、肉眼ではわかりにくいが臍孔が狭いが開いている点で本県産の他種と区別できる。



矢作川河口, 1994年8月9日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では7カ所生息地があった。カワザンショウガイ科貝類は生息地には群生するが多いが、本種の個体数はどの生息地でも少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。東京湾から九州にかけて分布する。

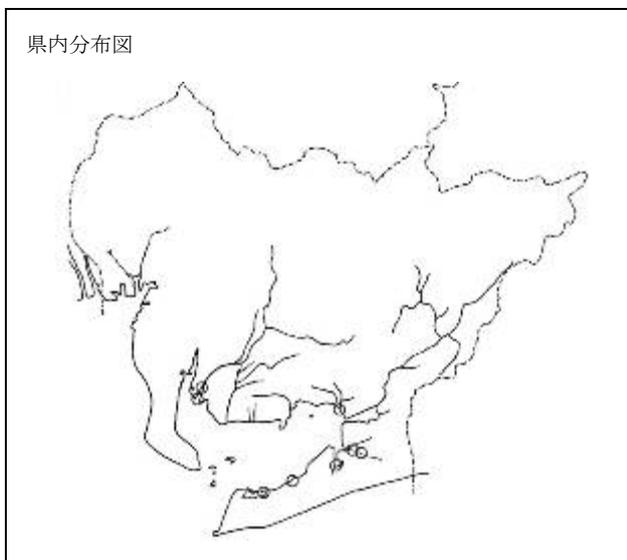
【生息地の環境 / 生態的特性】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生にかけての落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県(2000)では重要保護生物にランクされている。

【引用文献】

- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.  
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

## ヤマトクビキレガイ *Truncatella pfeifferi* Martens

### 【選定理由】

本種はやや外洋に面した内湾域の塩性湿地の高潮線付近に発達したアシ原内や転石下に生息する。本県ではアシ原湿地やその上部へ連続する陸上植生は護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。特に塩性湿地の陸上に近い部分は護岸工事などで破壊されやすく、生息場所の保全が心配される。

### 【形態】

殻高約 7mm の小型種。殻は淡赤褐色の円筒形で重厚。成貝では殻口が肥厚し、初期の螺塔が失われる。多くの個体では殻表に強い縦肋を持つが、螺肋が全くない個体まで個体変異がある。



豊橋市梅田川河口, 1994年8月7日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように愛知県での生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)では1カ所生息地があった。その後、渥美半島先端部の三河湾側に1カ所生息地を確認した。生息場所では個体数が比較的多いが、2カ所とも生息場所の規模は小さい。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島。国内では北海道南部から種子島まで分布する。

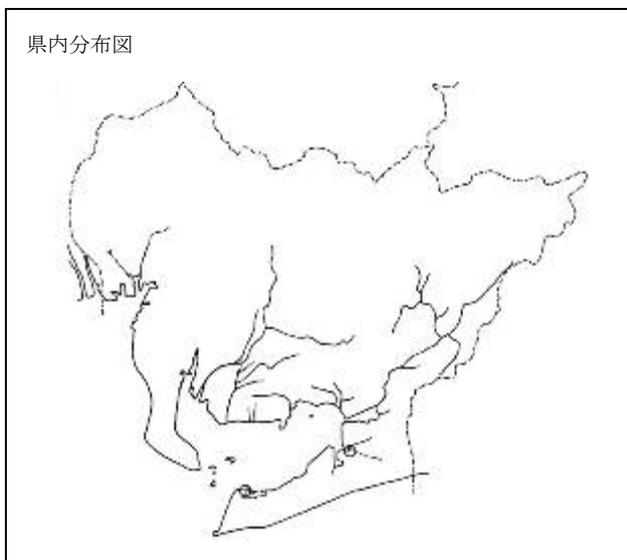
### 【生息地の環境 / 生態的特性】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生にかけての打ち上げ物の下や転石下に生息する。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



### 【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

### 【特記事項】

千葉県(2000)では要保護動物にランクされている。

### 【引用文献】

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, 54: 44-56.  
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

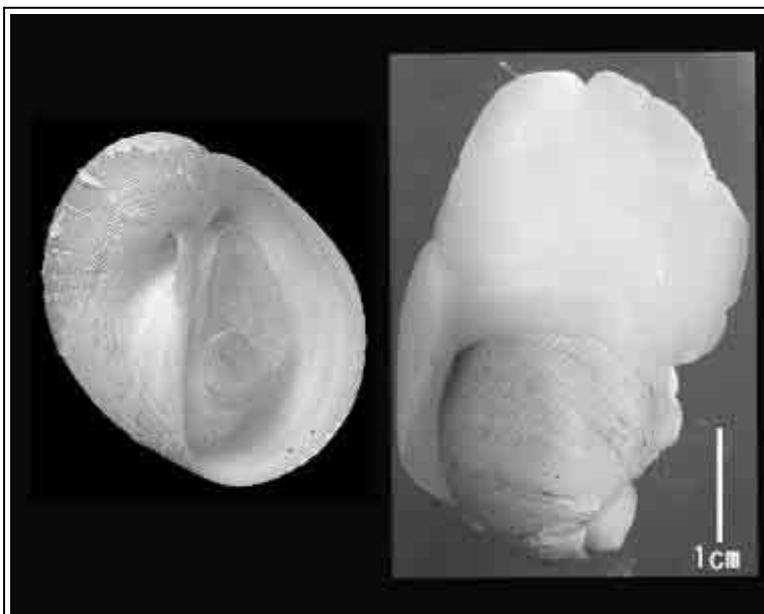
## ネコガイ *Eunoticina papilla* (Gmelin)

### 【選定理由】

本種は内湾の泥質干潟から潮下帯にすむ。本県では、干潟と共に内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には三河湾奥部の干潟周辺に普通に見られたようで(愛知県科学教育センター,1967)、現在でも死殻は比較的普通に採集されているが、生貝が確認されている場所は稀である(木村,1996:木村,2000)。

### 【形態】

殻径約3cmの洋なし型で殻はやや厚い。殻表は細かい螺肋が刻まれ白色、生時には薄い淡褐色の殻皮で被われる。蓋は革質で殻口より小さく、大きさの異なる半円を組み合わせた様な形をしている。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005年7月21日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように県内で死殻は比較的普通に採集されるが、生貝は少ない。蒲郡市三谷地先人工干潟(木村,2005)で一時的に比較的多くの生貝が採集された。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、インド洋、西太平洋。国内では房総半島以南から琉球列島まで分布する。

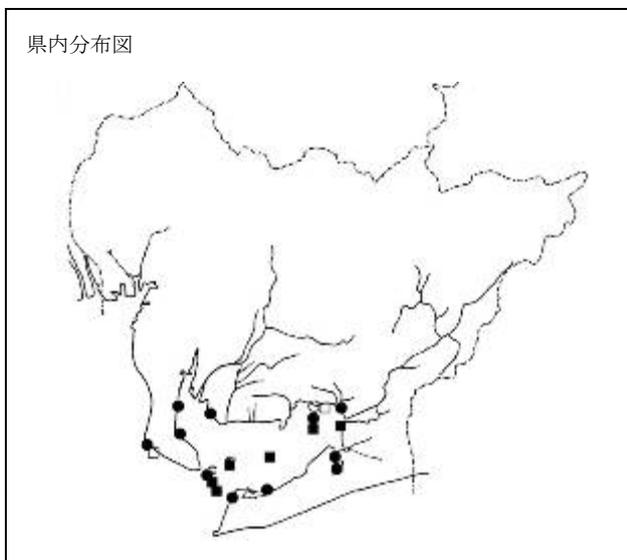
### 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように現在でも三河湾奥から湾口部にかけて比較的新鮮な死殻は採集できるが、生貝はきわめて稀である。

県内分布図



### 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

### 【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究集報(第35報):3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.  
木村昭一, 2005. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, 31: 29-31. 名古屋貝類談話会.

オダマキガイ *Depressiscala aurita* (Sowerby)

【選定理由】

本種は外洋に面した内湾の潮下帯砂底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾口部、伊勢湾知多半島沖などの限られた場所で生貝が採集されているが、個体数は少ない(木村,1996;木村,2000)。



南知多町内海沖水深 7m(ドレッジ), 2000 年 7 月 27 日, 木村昭一 採集

【形態】

殻高約 1cm の高い塔型で殻は淡褐色で 3 本の広い褐色色帯がある。殻表には不規則な縦肋があり光沢がある。蓋は革質で褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内潮下帯での生息数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、西太平洋。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように現在でも限られた場所で生貝が少数採集されているが、生息場所、生息数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種は透水性の高い砂底で生息が確認されているので、特に底質の泥質化に注意を要する。

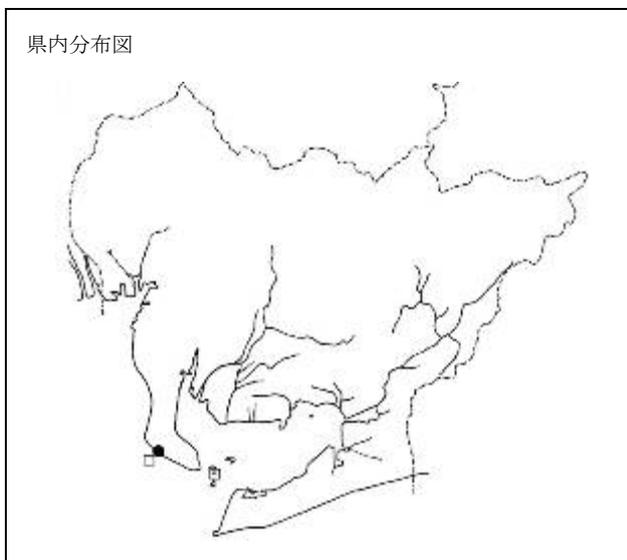
【特記事項】

葉山しおさい博物館 (2001) では減少にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

県内分布図



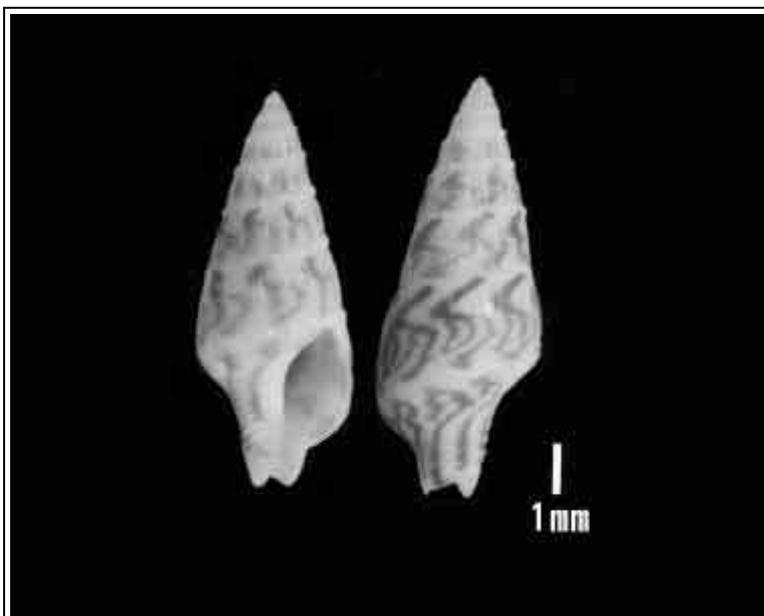
スミスシラゲガイ *Mitrella yabei* (Nomura)

## 【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化している、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で生貝が採集されているが、個体数は非常に少ない(木村,1996:木村,2000)。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

## 【形態】

殻高約 1.5cm の長い紡錘型の貝で、殻底は強くくびれ、殻口は肥厚しない。殻表は黄褐色で、不規則な褐色の縦帯をもつ。



南知多町内海沖水深 15m(ドレッジ), 2001 年 7 月 31 日, 木村昭一 採集

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

上述したように県内潮下帯での生息数は非常に少ない。

## 【世界及び国内の分布】

日本固有種。三陸海岸以南から九州まで分布する。

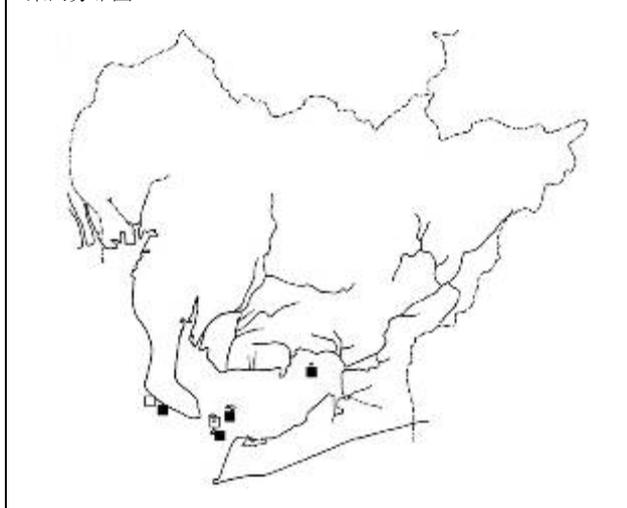
## 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

## 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、三河湾奥(蒲郡市沖)では古い死殻が稀に採集されるのみで、生息状況は確実に悪化している。

県内分布図



## 【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

## 【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ムシロガイ *Niotha livescens* (Philippi)

## 【選定理由】

本種は内湾からやや外洋にかけての干潟から潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の干潟から潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種もかつては三河湾から伊勢湾にかけて普通に生息していた(愛知県科学教育センター,1967)が、近年急速に生息場所、生息数共に激減し、生貝が全く採集されていない(木村,1996:木村,2000)だった。2006,2007年の現地調査で渥美半島先端部伊良湖岬周辺のアマモ場で健全な個体群の生息を確認したので、今回ランクを下げた。しかし、生息範囲は狭く予断を許さない。



伊良湖岬北東側水深 1-2m アマモ場, 2007年6月3日, 木村昭一 採集

## 【形態】

殻高約 2cm の卵形の貝で、殻は厚く、太く低い縦肋があるが、細い螺溝で横切られ、石畳状になる。殻口は丸く、内唇側に白い滑層が発達する。

## 【分布の概要】

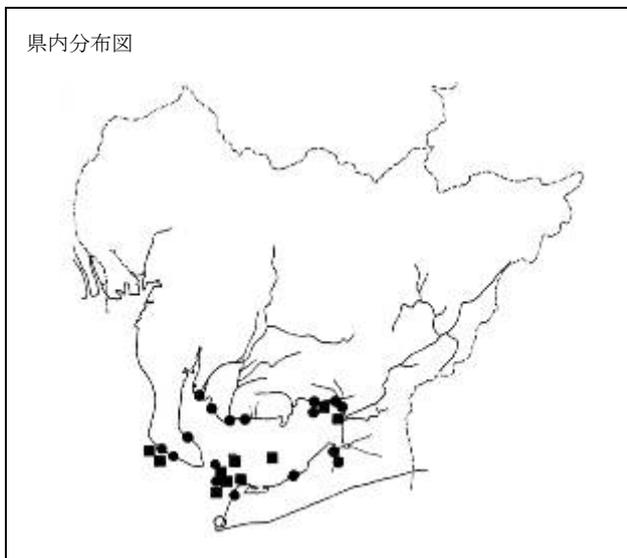
## 【県内の分布】

上述したように県内の内湾域では、古い死殻は比較的多く見られるが、生貝は限られた海域のみで採集される。

## 【世界及び国内の分布】

日本、韓国、熱帯インド、西太平洋。国内では三陸海岸以南から九州まで分布する。

県内分布図



## 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

## 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような生息環境悪化のため減少していると考えられる。しかし、近年急激に減少し生貝が見られなくなった理由については不明。本種と生息場所をほぼ同じくするアラムシロガイは内湾奥から湾口部の干潟から潮下帯にかけて現在もきわめて多産する。

## 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

## 【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

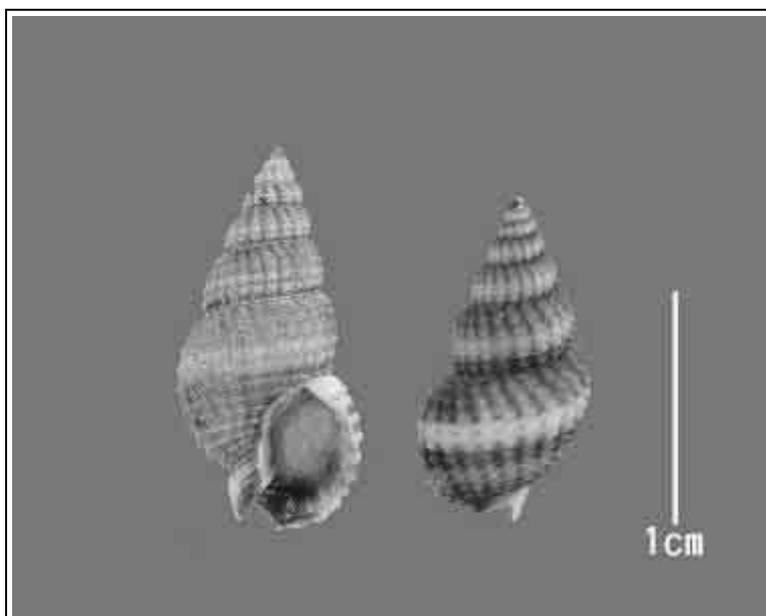
## キヌボラ *Reticunassa japonica* A.Adams

### 【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての干潟から潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の干潟から潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種もかつては三河湾から伊勢湾にかけて多産していた(愛知県科学教育センター,1967)が、近年急速に生息場所、生息数共に激減し、新鮮な死殻は比較的多く採集されるが、生貝の個体数は非常に少ない(木村,1996:木村,2000)。

### 【形態】

殻高約 1.5cm で螺塔は高く螺層はよく膨れ、縫合はよくくびれる。殻はやや薄く、細く密な縦肋が細い螺溝で横切れ、顆粒状になる。殻口は丸く、内唇側には滑層が発達しない。



南知多町内海沖水深 8-10m(ドレッジ), 2007 年 8 月 8 日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように県内の内湾域では、死殻は比較的多く見られるが、近年生貝の個体数が著しく減少した。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では本州以南から九州まで分布する。

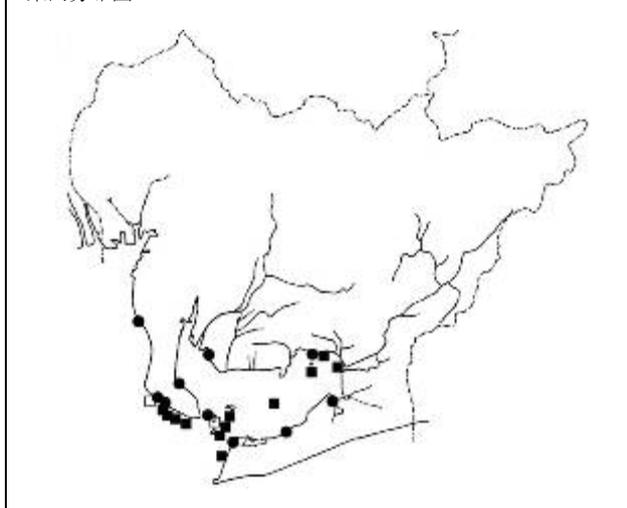
### 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような生息環境悪化のため減少していると考えられる。本種はアマモ場周辺に多いので、アマモ場の減少も本種の減少の要因かも知れない。しかし、近年急激に生貝が減少した理由については不明。

県内分布図



### 【保全上の留意点】

アマモ場を含めた内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

### 【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

## ウネムシロ *Reticunassa hiradoensis* (Pilsbry)

### 【選定理由】

クロスジムシロ *Reticunassa fratercula* の亜種として、ウネムシロ *R. f. hiradoensis*、ヒメウネムシロ *R. f. hizenensis*、アオモリムシロ *R. f. hypolia* が含まれる場合がある (土屋,2000)。しかし、筆者の研究では少なくともクロスジムシロとウネムシロ、アオモリムシロは明らかに別種と考えられる。従って、本書では本種をクロスジムシロの亜種とはせず別種として掲載する。

本種は、本県では渥美半島三河湾側の一部の 2 地点の狭い範囲にしか生息せず、絶滅が危惧される。

### 【形態】

殻高約 2cm で螺塔は高く螺層は膨れ、縫合はくびれる。殻はやや厚く、畦状の縦肋がある。螺肋は、細いが明瞭で殻表面は布目状。殻口は丸く、内唇側には滑層が発達しない。殻の色彩は、黒褐色、橙色など変異がある。



田原市伊川津干潟, 2007 年 6 月 2 日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

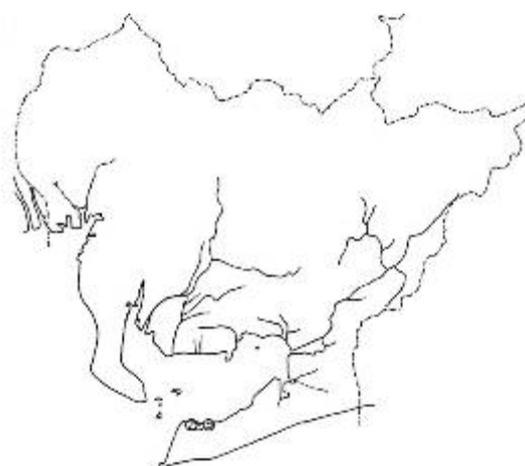
#### 【県内の分布】

上述したように県内では 2 地点しか生息地が確認されていない。幸い健全な個体群が生息している。

#### 【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道から九州の内湾に分布する。

県内分布図



### 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

【選定理由】の項参照。

### 【保全上の留意点】

内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

### 【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

### 【引用文献】

土屋光太郎, 2000. ムシロガイ科. In: 奥谷喬司(編). 日本近海産貝類図鑑. pp.218-224. 東海大学出版, 東京.

## クロスジムシロの近似種 *Reticunassa* sp.

### 【選定理由】

本種は、クロスジムシロ *Reticunassa fratercula* の近似種と考えられ、ウネムシロ *R. f. hiradoensis*、ヒメウネムシロ *R. f. hizenensis*、アオモリムシロ *R. f. hypolia* をクロスジムシロの亜種とする分類体系 (土屋, 2000) ではクロスジムシロに同定されると思われる。しかし、筆者の研究では少なくともクロスジムシロとウネムシロ、アオモリムシロは明らかに別種と考えられる。その上にクロスジムシロと同定される中には多くの隠蔽種が隠されている可能性も高い。従って、本書では本種をクロスジムシロの近似種として掲載する。

本種は、本県では渥美半島三河湾側の 1 地点の狭い範囲にしか生息せず、絶滅が危惧される。

### 【形態】

殻高約 1cm で螺塔は高く螺層は膨れ、縫合はくびれる。

殻はやや厚く、弱い縦肋があるが、螺肋は、弱く殻表面はなめらか。殻口は丸く、内唇側には滑層が発達しない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

上述したように県内では 1 地点しか生息地が確認されていない。生息地では幸い健全な個体群が認められた。

#### 【世界及び国内の分布】

未同定種なので不明。

### 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

【選定理由】の項参照。

### 【保全上の留意点】

内湾干潟から潮下帯の生息環境を保全する。干潟を保全し、水質の富栄養化を防止することが必要である。

### 【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

### 【引用文献】

土屋光太郎, 2000. ムシロガイ科. In: 奥谷喬司(編). 日本近海産貝類図鑑. pp.218-224. 東海大学出版, 東京.



田原市伊川津干潟, 2007年6月2日, 木村昭一 採集

県内分布図



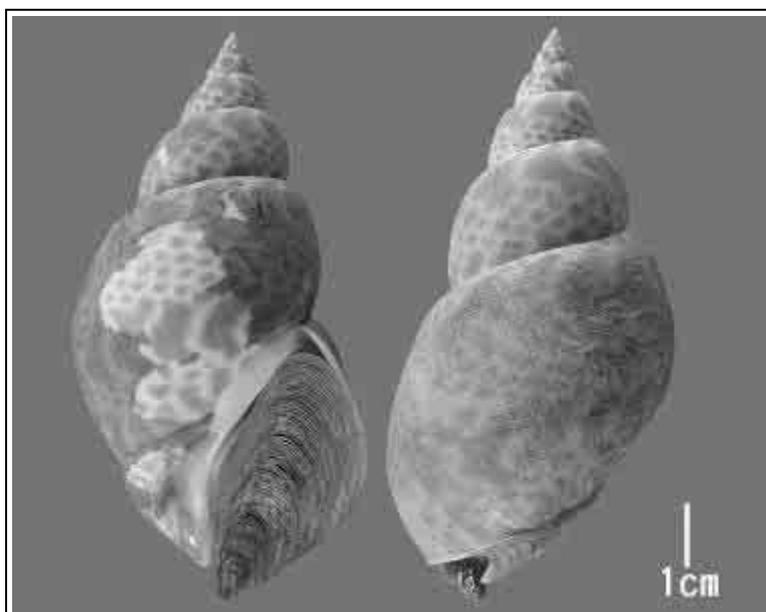
## バイ *Babylonia japonica* (Reeve)

### 【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種は1960年代には多産し、バイ簗で採捕されて食用に供されていた(愛知県科学教育センター,1967:豊浜漁協聞き取り調査)。しかし、急速に減少し、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖では死殻すら稀である(木村,1996:木村,2000)。ただし、近年渥美外海でトロール漁船によってまとまった個体数の生貝が水揚げされる事があり、回復傾向が確認されている。従って今回ランクを下げたが、依然として内湾域ではほとんど生貝が採集されないので、予断を許さない。和田ほか(1996)では、絶滅寸前とランクされている。

### 【形態】

殻高約7cmの卵形の貝で、殻は厚く平滑。殻表には褐色の斑列があるが、生時には殻表は褐色の殻皮で覆われるので斑列は不明瞭になる。蓋は革質で厚く、殻口を全てふさぐ。



伊勢湾湾口部水深20m(クルマエビ底刺網), 1983年5月8日, 木村昭一 採集

### 【分布の概要】

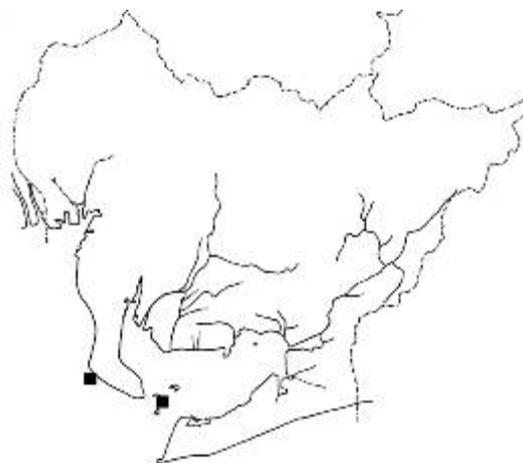
#### 【県内の分布】

上述したように県内の内湾域の潮下帯では、ほとんど生貝が採集されない。

#### 【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島。国内では北海道南部以南から九州まで分布する。

県内分布図



### 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

### 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような生息環境の悪化のほか、本種については有機スズ化合物による雌の雄化による個体数の減少が報告されている(堀口,1998)。

### 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

### 【特記事項】

水産資源保護協会(1996)では希少にランクされ、葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

### 【引用文献】

- 堀口敏広, 1998. インボセックス 巻貝類における雌の雄化現象. 海洋と生物, 117: 283-288.  
 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第35報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.  
 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.  
 水産資源保護協会, 1996. 軟体動物. 日本の希少な野生水産生物に関する基礎資料(Ⅲ), 90pp.  
 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.  
 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

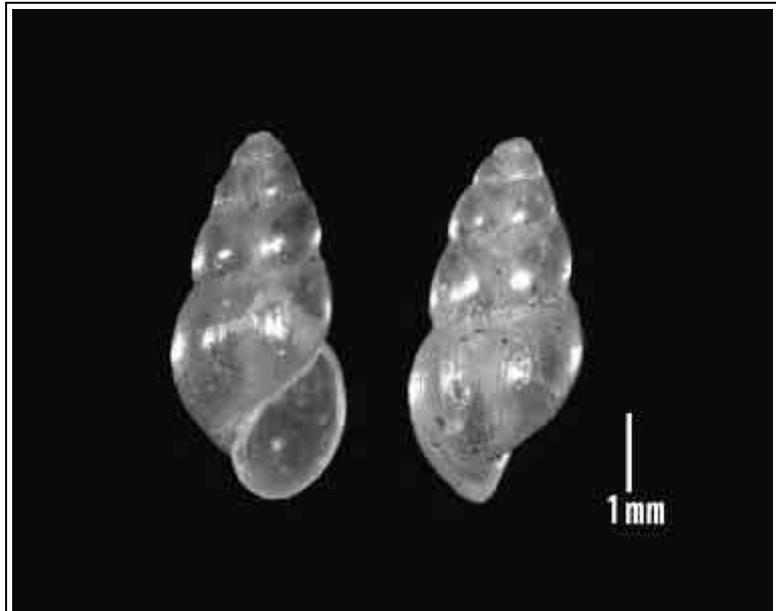
## ヌカルミクチキレ (未記載種) Gen. et sp.

## 【選定理由】

本種は和田ら (1996) で和名だけが提唱された未記載種である。内湾奥の泥干潟にヨコイトカケギリ (トウガタガイ科) やカワグチツボ、エドガワミズゴマツボと共に生息する。三河湾、伊勢湾の干潟から潮下帯に広く分布するヨコイトカケギリと比べて、本種は生息範囲が狭く、県内では現在汐川干潟の奥部の泥干潟でのみ生息が確認されているにすぎない (藤岡・木村, 2000)。本種は未記載種であるが、本県における前述のような生息環境は比較的調査が行われたので、前回の情報不足からランク付けする。和田ほか (1996) では、危険とランクされている。

## 【形態】

殻長約 4mm 微小な細いさなぎ型の貝。殻は黄色褐色で成長脈は弱く、光沢が強い。殻口軸唇には弱い襞が 1 本ある。肉眼で見るとカワグチツボとよく似ているので混同されやすい。



汐川干潟, 1995年8月3日, 木村昭一 採集

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

上述したように生息場所は限られていて、生息が確認されたのは汐川干潟のみであるが、健全な個体群の生息が確認されている。死殻の採集記録があるのは、美浜町布土 (河合, 1998) のみである。

## 【世界及び国内の分布】

日本でのみ発見されている。三河湾、伊勢湾、瀬戸内海に分布する。

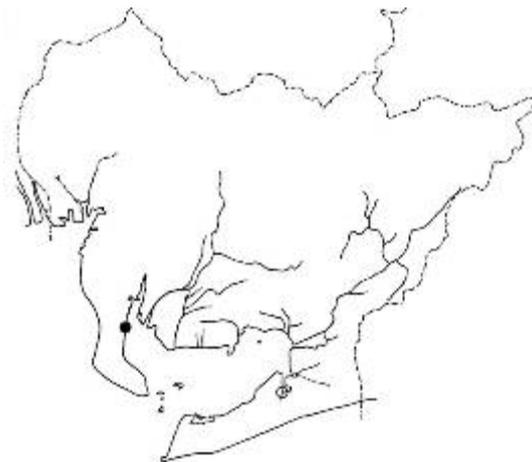
## 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

## 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したように県内では、生息地は汐川干潟のみで、更に詳細な生息調査が必要である。

県内分布図



## 【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

## 【引用文献】

藤岡えり子・木村妙子, 2000. 三河湾奥部汐川干潟の 1998 年春期における底生動物相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 10: 31-39.

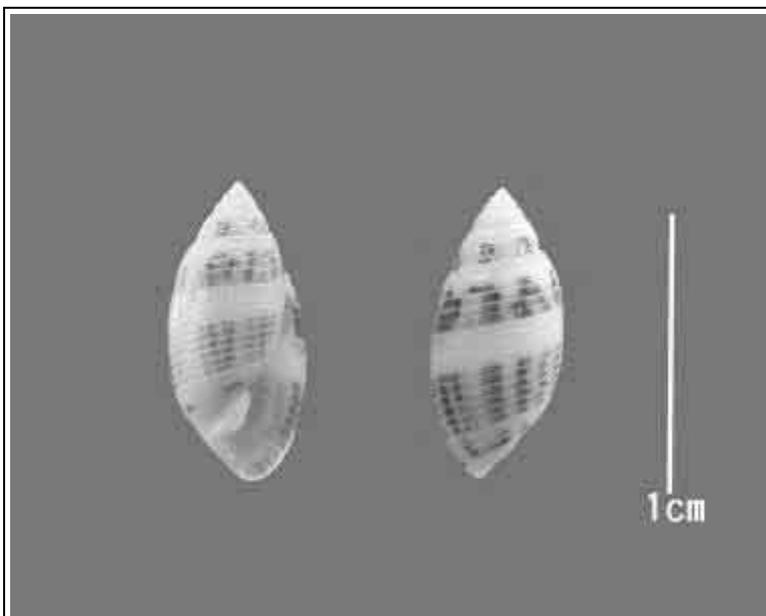
河合秀高, 1998. 内湾性稀少種サザナミツボの新産地. かきつばた, 24: 16-17. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

コシイノミガイ *Pupa strigosa* (Gould)

## 【選定理由】

本種は内湾から湾口部の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の干潟から潮下帯の環境が急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。近年3年間のドレッジ調査で、知多半島伊勢湾側より少数の生貝が採集されたが、その生息範囲は狭く、その他の海域では生貝が採集されなかった(木村,2000)。



南知多町内海沖水深7m(ドレッジ), 2000年7月27日, 木村昭一 採集

## 【形態】

殻長約1cmで、殻は長卵形、やや厚質で光沢がある。殻表全面にやや強く粗い螺溝をめぐらす。方形の灰色小斑が螺溝の間に多数並ぶ。

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、死殻は三河湾湾口部の比較的広い範囲で採集されるが、生貝が採集される範囲は狭く、個体数も少ない。

## 【世界及び国内の分布】

日本、南シナ海。国内では福島県以南に分布する。

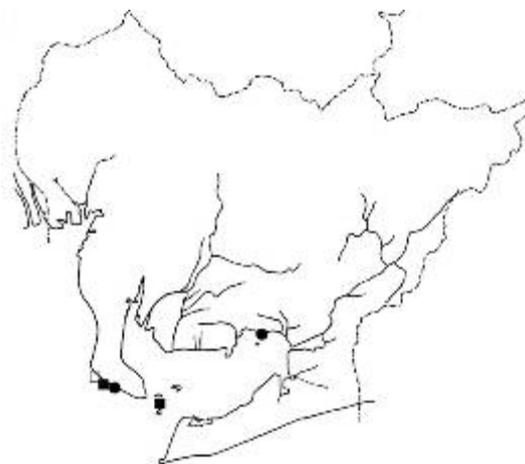
## 【生息地の環境 / 生態的特性】

【選定理由】の項参照。

## 【現在の生息状況 / 減少の要因】

上述したような干潟から潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。県内では生貝は透水性の高い潮下帯(水深約10mまで)の砂底に限定され、生息範囲が著しく狭い。

県内分布図



## 【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

## 【特記事項】

葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

## 【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.